SHOW-HEYシネマルーム

★★★★

わたしは最悪。

2021年／ノルウェー・フランス・スウェーデン・デンマーク映画
配給：ギャガ／128分

2022（令和4）年7月14日鑑賞　シネ・リーブル梅田

Data　２０２２－８５

監督・脚本：ヨアキム・トリアー
脚本：エスキル・フォクト
出演：レナーテ・レインスヴェ／アンデルシュ・ダニエルセン・リー／ハーバート・ノードラム／マリア・グライア・ディ・メオ／マリアンヌ・クローグ

みどころ

女の３０歳は結婚と出産における節目だから、「３０女の生きる道」は難しい。それは上海に生きる３人の３０女を描いた中国のＴＶドラマ『３０女の思うこと』でもよくわかるが、ヨアキム・トリアー監督が魅力的な若手女優レナーテ・レインスヴェに“あて書き”した本作では？

『わたしは最悪。』とは何とも強烈なタイトルだが、ヒロインはホントにそう思っているの？それとも、それは逆説？

同棲中の男がいるのに、一晩中別の男と“親密な関係”になるのは浮気？それとも？あの男、この男、どちらが魅力的？恋と仕事、どちらを優先？北欧のオスロを舞台とした、そんな３０女の生きる道をしっかり確認したい。

――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――

■□■映画初主演ながらカンヌで女優賞を！タイトルが強烈！■□■

デンマーク生まれ、ノルウェー育ちのヨアキム・トリアー監督は現在の北欧を代表する映画監督の１人と言われているが、私が観たのは『テルマ』（１８年）（『シネマ４３』未掲載）１本だけ。そんなトリアー監督のオスロ・トリロジー（3部作）のラストを飾るのが、本作。本作は第９４回アカデミー賞の脚本賞と国際長編映画賞にノミネートされた他、第７４回カンヌ国際映画祭では、本作のユリヤ役で映画初主演したレナーテ・レインスヴェが女優賞をゲット！

本作で目につくのは、『わたしは最悪。』というタイトルの強烈さ。邦画には、『悪人』（１０年）（『シネマ２５』２１０頁）や『最低。』（１７年）（『シネマ４１』未掲載）があり、韓国映画には、『悪人伝』（１９年）（『シネマ４７』２２９頁）が、アメリカ映画には『悪の法則』（１３年）（『シネマ３２』２６０頁）等もあるが、『わたしは最悪。』と自認する本作のようなタイトルは珍しい。すると本作では、ひょっとして女優賞をゲットしたレナー

テ・レインスヴェ扮する主人公のユリヤが最悪の女に・・・？

■□■「３０女の生きる道」あれこれ■□■

本作は３０歳という節目を迎えたものの、人生の方向性が定まらない主人公が、時に自己嫌悪に陥り、周りを傷つけながらも自分の気持ちに正直に人生の選択をしていくという物語。そんな物語はたくさんあるが、近時、私がハマった中国 TV ドラマ『３０女の生きる道』は、３人の３０女の生き方をクロスさせた面白いドラマだった。同ドラマは、３人の女たちの友情がもう一つのテーマだったが、本作は３０女、ユリヤの恋愛物語が中心になる。

冒頭のナレーションで、さまざまな才能を持つユリヤが最初は医者を目指したものの、その後、心理学者、カメラウーマン、作家とさまざまに方向転換しながら、すべて中途半端なまま３０女になってしまっている“現状”が紹介される。ユリヤは、今は本屋でアルバイトをしながら、１５歳も年上の漫画家アクセル（アンデルシュ・ダニエルセン・リー）と恋に落ちていたが、さて２人の仲は？

本作はそんな序章の後、第１章から第１２章までに分けて、３０女のユリヤの“生態”が生々しく描かれるので、それに注目！

■□■ユリヤにはこんな男がいい？それともあんな男が？■□■

３０女の第１の選択は、結婚するか否か。第２の選択は、出産するか否か。「３０女の生きる道」では、１人が結婚・出産し、１人が結婚だけ、そして１人が独身のまま、と３つのパターンを揃えていた。しかし、本作のユリヤは、アクセルとの同棲生活からスタート。そこで気になるのは、２人の年齢差。そのため、アクセルは早く子供が欲しいと願うのに対し、ユリヤは曖昧なままだから、その点でいつか行き違いに・・・？他方、良い兆候は、自分のやりたい仕事をあれこれと変えてきたユリヤが、今は執筆活動を始めたため、アクセルと方向性が同じになったこと。なるほど、これなら２人の仲は安定していくのかも・・・？

第１章：ほかの人々「今は分からない、母性が欠けてるの」を観ながらでそう思っていると、第２章：浮気「『これ　浮気？』『違う』『だよな』」では、アクセルの出版イベントを途中で抜け出したユリヤが、家に帰らずに見ず知らずの結婚披露宴に乱入していくからアレレ・・・。いくら美人だからといって、こんな勝手なこと（気まぐれ？）が許されるの？さらに、ユリヤが会場内でたまたま見つけたバリスタの男アイヴィン（ハーバート・ノードラム）と、お互いに名前も素性も打ち明けないまま“親密”になっていき、一晩中共に過ごしたから、さらにアレレ・・・。いくら自分探しに悩む３０女だからと言って、ここまでのアバンチュールが許されるの？もっとも、こんな関係がおかしいことは誰よりも２人自身が気づいていたから、朝になってからの別れ際、２人は姓を教えず、名前だけを教え合って別れることに。そのココロは、それ以上教えると電話番号がすぐにわかってしまうから危険、というわけだが、さて・・・？

■□■章立ての妙に感服！■□■

前述したとおり、３０女の選択の第１は結婚するか否か、第２の選択は出産するか否かだ。それを巡って本作は以下、第３章：#MeToo 時代のオーラルセックス「友達が男と寝た時―」、第４章：わたしたちの家族「君も自分の家族が要る」、第５章：タイミングが悪い「愛してるけど　愛してもいない」等、さまざまなテーマ毎に展開していくからわかりやすい。

ちなみに、第７章は、新しい章「彼も子供は望まなかった」だが、第１１章は、陽性「昔言いたい放題だったわたしをあなたは責めなかった」だから、ユリヤは、アクセルともアイヴィンとも結婚はしないまま妊娠はしたらしい。しかし、第１２章は、すべてのものに終わりがある「幸せに生きたい」「生きたいよ……僕のアパートで君と……」だし、エピローグは、「じゃあ　その気持ちのままで」だから、さて、ユリヤの結婚は？出産は？

本作は、そんな章立ての妙に感服！

■□■新生女優への“あて書き”はズバリ！その賛否は？■□■

中国の TV ドラマ『３０女の思うこと』は、上海に生きる３人の３０女の恋愛、結婚、出産と仕事に向けた三人三様の生きザマが興味深かったが、本作は女優レナーテ・レインスヴェに惚れ込んだヨアキム・トリアー監督がレナーテ・レインスヴェに“あて書き”をした脚本だから、ユリヤに集中した３０女の生きザマ（生態）に注目！

本作前半では、アクセルと同棲生活を送りながらもアイヴィンに魅かれているユリヤの心情が描かれるが、そこでは、いくら一晩中“親密な関係”になっても、セックスをしない限り、「これは浮気じゃないよね！」と弁解し続けるユリヤとアイヴィンの関係が面白い。その延長戦（？）として、２人はセックスをしない（我慢する）代わりに、お互いの脇の匂いを嗅ぎ合うとか、トイレでおしっこを見せ合って、思わずおならが出ちゃうとかの行為をスクリーン上で見せるが、その賛否は？

その他、本作は序章とエピローグ、そして第１章から第１２章までのテーマごとのストーリー仕立てが非常に面白いので、それをしっかり楽しみたい。

２０２２（令和４）年７月２６日記